慧　光

金光寺寺報
第２０５号
発行所　金光寺
宮崎県西臼杵郡
五ヶ瀬町大字鞍岡
５９２７番地
☎　０９８２
８３－２３３８

▲　夏を思わせるヒマワリ、もう咲いてます（山口家にて・７月４日撮影）

今月法語カレンダーのことば

雑毒の善をもつて
かの浄土に回向するこれ必ず不可なり

今月のことばは、『浄土文類聚鈔』にあるご文です。『浄土真宗辞典』（本願寺出版社刊）の「回向」の項には、「自己の善行の功徳を自身の菩提、または他にめぐらしさしむけること」と説明されています。

自分自身がさとりを開くために、善行を積んでいくという考えが一つです。もう一つは、他者をさとらせるために、自分自身が善行を積んでいくという考えです。ともに、自分自身が善行を行って積んだ功徳を「回し向ける」という考え方です。前者・後者とも、親鸞聖人のお考えとは異なりますね。雑毒とは、毒が雑るということです。毒とは、三毒の煩悩を指します。

私たちがしていることは、浄土に回向して評価されるような善行・功徳ではありません。「雑毒の善」といわれるものでしかありません。この「雑毒の善」を回向するからといって、お浄土に往生させていただけるわけではありません。

阿弥陀さまは、一部の人を救い、そのほかの人を救わないとはおっしゃいません。特定の人を先に救い、そのほかの人は後回しという救い方でもありません。救いに、前後・後先などの順番を付けたりもなさりません。何十年も修行を続ける人も、まだ修行を始めて日の浅い人も、すべて等しく救いたいと願い、誓ってくださっています。

阿弥陀さまの眼差しは、すべての者が行っているすべての事柄は皆、浄土往生にとっては「雑毒の善」でしかないということです。だからこそ、すべての人を放っておくことができずに、常に寄り添い、必ず救うと願ってくださるのです。（本願寺出版社刊「大乗」誌掲載
『月々のことば』より抜粋　転載）

仏教用語豆辞典

和顔愛語（わげんあいご）

今年も残り少なくなってきましたね。さぞかしお忙しいことでしょう。

いや、年末だけでなく、今年一年中忙しかったという方もいらっしゃることでしょう。そんな方に「和顔愛語」という言葉を贈ります。

和顔愛語は、学校の校訓になったり、額や書幅にも書かれたりしておなじみですね。和顔はやわらかな笑顔、愛語はやさしい言葉。つまり、笑顔で愛情のこもった言葉を話すことです。

金や物がなくても誰にでもできる施しである「無財の七施」にも「やさしい言葉で相手に接する施し」「善意に満ちた和やかな顔と明るい姿で相手に接する施し」があります。

人間関係にはたいへん大切な態度ですが、心に余裕がなければ、なかなかできるものではありませんよ。

この和顔愛語は『無量寿経』というお経に出てくる言葉です。

忙しい、忙しいで、今年も暮れようとしていますが、来年こそは「和顔愛語」を忘れないようにしたいものですね。

（本願寺出版社発行
辻本順著敬
「仏教用語豆辞典一〇〇
ＰＡＲＴⅡ」から）

仏事お休みのお知らせ

下記の日は緊急を除き、仏事は行いません。ご協力をお願いします。

◎　７　月
１２日（木）　午　後
２２日（日）　終　日

◎　８　月
１５日（水）　終　日
２４日（金）　終　日

◎　９　月
１３日（木）　終　日
２３日（日）　終　日

◎１０　月
２３日（火）　午　後
２４日（水）　終　日

６月、次の金光寺門信徒の方がご往生なさいました。謹んでお悔やみ申し上げます。

２０１８年　６月　９日　満８５歳
波　帰　　松　永　松　義　様

ホームページ開いています。
ＵＲＬ　http://konkouji.jp/
７月５日現在　アクセス数　８２，３８１人

先月記載しておりましたアクセス数「８２，９４１人」は「８１，９４１人」の誤りでした。訂正してお詫びします。

住職ひとりごと

寺報第三号（平成十三年五月発行）から本誌で連載していた「仏教用語の豆辞典」、本号で最後になります。本願寺出版社発行「仏教用語の豆辞典」から転載していたのですが、同書パート１・パート２すべてのコラムの掲載を完了したためです。足かけ十八年寺報編集の助けになっていました。来月号から何を掲載しようか思案中です。来月号の編集までに考えがまとまるといいのですが！▼坊守がミニトマトを鉢植えで栽培しています。実はなったのですがなかなか色づかず、食することができるようになるのかなと思っていたら、五日の日に二個だけ色づいたミニトマトがお皿に乗せられて食卓に出てきました。食べてみると糖度が足らないように感じましたので「糖度が足らないね」というと坊守からの返答。「特別手をかけているわけではなく、鉢植えにして水やりと日光に当てるだけだから商品として売られるミニトマトの味を求めてはダメ」。なるほどなと思ったことでした。そして「味の濃淡を問わじ」という食前のことばを思い出しました。（住職　松井卓郎）